歯学部学生の様子

歯学科１年　網　塚　ひかり

入学からあっという間に時が経ち、今年度も残りわずかとなりました。歯学部での授業について少しと、これまでの学生生活を振り返って私が感じたことを書かせていただこうと思います。

１年生のうちは主に一般教養科目を学ぶため、歯学の専門的な勉強はあまり行いませんでしたが、今後専門的な知識を学んでいく上で必要なことを、前期の間に学びました。まず、早期臨床実習では、大学病院の各歯科診療科について、先生方からパワーポイントや動画を用いた説明があり、どんな診療が行われているのかを学びました。歯学スタディ・スキルズでは、ワードやエクセルの使い方など、今後の大学生活で必要なスキルを学びました。パソコン操作やレポートの作成など、初めての作業で難しく感じることもありましたが、試行錯誤しながら、頑張ることが出来たと思います。

私にとって今年度は、大学入学という人生の節目であったとともに、感染症対策の関係で、今までの生活様式までもが一変した年でした。そのため、入学してからしばらくは、楽しいことよりも大変なことの方が多かった気がします。一人暮らしが始まり、新しい環境に慣れるまでの苦労がありましたし、オンラインでの授業は、どう集中を継続させるかで悩みました。また、なによりも辛かったのが、同期生とのつながりがほとんどなかったことです。新潟で暮らしながらも同期生と直接関わる機会がなく、孤独で不安だったことを覚えています。

しかし、前期の終わり頃から徐々に部活動が始まり、部活の先輩方や友人と関わるようになってからは、ようやく自分の大学生活が始まったような感覚で、毎日がとても楽しく感じるようになりました。先輩方は私たち新入生を温かく迎えてくださり、時には相談に乗ってくださったのが本当にありがたかったです。部活で出来た友人とは、不思議なくらい出会ってすぐに打ち解けることができ、悩みを相談したり、遊んだり、互いに支えあいながら、楽しい日々を送ることが出来ています。また、後期からは心の余裕も出てきて、自動車学校、アルバイトを始めるなど、より充実した生活を送ることが出来るようになりました。現在も、前向きな気持ちで日々を過ごしています。

もし、コロナウイルスが蔓延していなければ…、もっと早く友人たちと出会えていたなら…などと考えてしまうこともちろんありますが、一人きりの時間が長かった前期の経験があったおかげで今、友人や先輩方など、誰かとつながる喜びを大きく感じることが出来ているのだと思います。また、寂しい時に電話をくれた家族の声は本当に温かく、いつも支えてくれる家族への感謝の気持ちを深く感じました。

今年度は、入学式や、その他の大学のイベントなど、楽しみにしていたことが中止となってしまい、今までの様にはうまくいかないことの多い年でした。ですが、普段気づかなかったことに気づくことが出来た、大切な年だったのではないかと思います。これからの大学生活の中でさらに困難なこともあると思いますが、人とのつながりを大切に、感謝を忘れず、前向きに頑張っていきたいと思います。

2年生の今

歯学科2年　橋　本　凜之輔

2年生に進級してはや半年以上経過しました。1年生の頃に学習をしていた五十嵐キャンパスから旭町キャンパスへと移動し勉強内容も専門分野が中心となったため、心機一転し、非常に新鮮な気持ちです。しかし、今年は例年とは違い進級に伴って新型コロナウイルス感染も拡大していきました。新型コロナウイルスは日本を狂わし、同様に私たちのキャンパスライフも狂わされました。専門分野の勉強がはじまるにあたって、様々な面で不安を抱えていただけに新型コロナウイルスによってその不安はより大きなものとなりました。友人にも会えないという状況であったため、不安は増していく一方でした。講義、実習はどうなるのか、試験の実施はどのようにされるのか、様々なことを考えました。

しかし、大学そして教授の先生方は不測の事態であったにも関わらず、Zoomでの授業を行なってくださるだけでなく、講義資料の作成やそれに伴った講義動画の作成など様々な工夫を施し、迅速な対応をしてくださいました。私はこのような講義体制を体験したことがなかったため、慣れない講義に非常に戸惑ってしまいました。そんな中でも受講したそれぞれの講義には工夫が施されていたため理解がしやすかったと感じました。ただ、対面講義ではないうえに、初めての専門分野であるため、時々自分一人では理解が難しい部分も出てきました。そんな時は友人の助けが非常に大きかったと感じます。実際に会うことはできないため、SNSやZoomといったものを介すことでお互いに理解を深めていきました。このようなコロナ禍の中でも、滞りなく学習できているのは偏に教授の先生方と友人のおかげであると思います。現在は講義体制にも慣れてきて、学習の質はより改善され、より有意義なものとなっています。

現在の学習内容はすでに歯科医師として必要な知識に直結するような内容であるため、非常に重要です。国家試験をまだ先のことであると考えることなく、現在学んでいる内容による知識の基盤づくりを行なっていきたいです。この基盤が今後進級をしていき、新たな知識を獲得し、理解を深めていく中で活きてくると思います。そのため、日々の講義内容の復習を繰り返し、知識を定着させていきたいです。また、ただ漠然と学習をするのではなく、なぜ今この学習をしているのか、この学習は医療現場へ出た時にどのように活かされるかを考え、理解を深めていくことが大切だと思います。この先も、現在の状況を言い訳に学習を疎かにしてしまわぬよう友人と支え合い、学習に励んでいきたいと思います。今後、医療従事者となるにあたってこのような不測の事態というのは起きてしまうと思います。人の命に関わることであるため、迅速な対応が必要とされます。そのため、このような状況は大きな経験となり、また対応力も養われたと感じます。このように、知識だけではない、医療現場で必要とされる様々な力を今後の大学生活での講義や実習などで養っていきたいと思います。

歯学部学生の様子

歯学科３年　成之坊　有　香

原稿の依頼を受けた時は、３年生に進級して約８ヶ月が経った頃でした。今年度は新型コロナウイルスの影響により、例年通りのように対面授業を行うことが難しい中、先生方のおかげで滞りなく、実習を行うことが出来ました。ありがとうございました。

３年生の前期に行われた人体解剖学実習は例年よりも短期間で行われましたが、学ばなければならない知識は例年通りのため、肉体的にも精神的にも辛いと感じる時が多々ありました。しかし、同期や先生方に支えて頂きながら、充実した実習を行うことが出来たと思います。そして、前期で経験した実習への向かう姿勢や精神力を後期の実習や講義へ活かしていこうという思いを胸に後期の実習や講義に臨みました。後期での授業では２年生や３年生前期とは異なり、基礎分野から臨床に関わる実習や講義が増え、後期の初めは慣れない日々を過ごしました。私は直ぐに歯冠修復学の実習で困難に直面しました。実習ではタービンを持つことも、印象をとることも全て初めてで、事前に予習をしてきても失敗してしまうことも多かったです。失敗してしまうことで周りより遅れをとってしまうなどの恐怖心もあり、控えめな行動をとってしまうこともありました。しかし、失敗した際には、「なぜ失敗したのか」「どうやったら上手くいくのか」を自分で考え、また先生方に尋ねることにより、失敗から学ぶことが出来ました。このような失敗から学ぶことも多かったです。また、実習書を読んだり、動画を見てきてもイメージ出来ないことも多く、その時は実習に来て下さる先生方に質問することにより、疑問を解決することが出来ました。講義や教科書で学んだ治療や製作の流れで理解しにくかったことも、実習を通して「なぜこの手順で行うのか」「この手順を行う意義」など新たに理解することもありました。また、実習に少しずつ慣れていく中、治療や製作を上手く行うだけではなく、実際に患者さんに行うことを意識して、力加減やレストの位置を考えられるようになってきました。実習を通して、自分たちの意識や手際など少しずつ成長できたのではないかと感じました。

３年生の後期を通して、歯科医師としての意識がさらに高まりました。臨床に関わる実習で初め壁にぶつかったこの経験を忘れずに、６年生までの残り３年間を有意義なものにしていきたいと思います。また、心が折れそうになった時に支えてくれた同期や私たちの実習に携わってくれる先生方に感謝を忘れず、これからの３年間を過ごしていきたいです。

３年生を迎えて

歯学部生の今

歯学科４年　高　橋　勇　介

４年生の始まりは例年とかなり異なっていました。皆さんもご存じの通り、世界中でコロナが蔓延し緊急事態宣言が発令されていたからです。その影響により学校の開始は遅れ、オンラインでの授業が主となりました。主にZoomを利用した授業でありましたが、最初はかなり戸惑いました。ちゃんと授業に出席できているのか、課題は提出になっているのか心配な面が多かったからです。しかし、毎日それを繰り返していくうちに次第にその環境に慣れていき、今では当たり前のようにZoomで授業を受けています。授業の内容は歯科の分野がほとんどで、口腔外科学、歯周病学、予防歯科学などを学びました。以前と比べてより歯科に専門的な内容となり、いよいよ歯科医師になるという実感が強くなってきたように感じます。それに加え、それぞれの専門科医の先生が授業を行う医科学の授業もありました。医科学の授業は専門的で難しく感じましたが、臨床では医科との連携も重要であることを学びました。

夏休みまでの間、学校での実習や授業はなく、もちろん部活動も行えませんでした。例年通りであれば、４年生が部活動の主幹となり、新入生の勧誘活動を行い、毎年夏に行われる大会であるデンタルを目指しているはずです。しかし、残念ながらデンタルも中止となってしまい、全く部活動は行えませんでした。このように、自分が思い描いていた４年生の学校生活とは遠くかけ離れていました。ほとんど家に居て、授業を受け、課題に取り組む、そんな毎日を過ごしながら夏休みを迎えました。

夏休み明けからは一変して、多くの実習が始まりました。マスクの着用、定期的な換気、毎朝の体温測定など徹底した感染対策を行いながらの実習となりました。前半に授業で学んだことを、今度は実践して学びます。授業を受けて理解したつもりでも、いざ実習でやるとなるとそう簡単にはうまくいきません。実習ではより深い理解と知識、さらに技術が必要とされます。逆に、授業ではよく分からなかったことが、実習をすることで理解できることもあります。このように座学で学び、実習で実践することが、より実践的で確実な能力に結びつくのだと感じました。実習はとても大変ですが、それぞれの実習を担当する先生方や大学院生方が丁寧に教えて下さり、なんとか乗り切ることができています。

また、共に切磋琢磨し合える同期の存在は非常に心強いと、学年を重ねるごとに感じています。これからもお互い助け合いながら歯科医師を目指せればと思います。今年はコロナの影響が続いたため、運動会や医歯学祭など様々なイベントが中止となったり、授業、実習の日程や方法が変わったりと私たち学生にとって苦難の年であったと思います。しかし、このような状況下でも、私たち学生のために様々な工夫や対策を試行錯誤してくださっている学務の職員の方々や先生方には感謝しなくてはならないと思います。無事５年生に進級することができれば、いよいよCBTやOSCE、臨床実習が始まります。今後も今ある環境に感謝しながら、日々精進していきたいと思います。

歯学部学生の様子

歯学科５年　石　垣　裕　理

「コロナ禍」「ステイホーム」「ソーシャルディスタンス」といった言葉が世間で聞かれるのが当たり前になりましたね。１月にCOVID-19が確認されてから、緊急事態宣言、GoToトラベルなど様々な変化がありました。当たり前だったことが当たり前ではなくなり、人々は徐々に新しい日常を受け入れるようになりました。そして2021年１月再び緊急事態宣言が発令され、２月にはワクチン接種の開始も予定されています。この先どうなっていくのかという漠然とした不安を抱えておりますが、ひとまずこのコロナ禍の中どのように過ごしてきたのか振り返ってみようと思います。

５年生は始まりから今までとは全く違う春でした。予定されていたシラバスは大幅に変更。４月に緊急事態宣言が発令され、家での自習とZoomでの講義が中心となりました。慣れない形式に戸惑ったことが多かったですし、先生方も大変なご苦労があったと思います。通常の対面形式での授業のありがたさも身にしみました。７月にCBTを控えていた私たちはこうした状況下のため例年より多く勉強時間が確保できたかとは思いますが、やはり一人で家にこもって勉強するのは精神的に参ることもありました。しかしだからこそ気分転換・ストレス発散のためにランニングと筋トレにはまったことは自分の心身の健康上良かったと思います。

６月に入って講義はZoomのまま、対面形式での実習が再開されポリクリが始まりました。シラバスの変更の影響で期間・内容が縮小し、病院内への立ち入りは禁止のために学部棟内でのみのポリクリとなったため実習の総復習をしているといったイメージで、この頃の自分はまだ実際に病院に出て診療するのだという実感も自覚も足りていなかったと感じます。CBTが無事に終わり、おそらく自由に楽しめるのは最後だったはずの夏休みも旅行にも行けず友人にも会えずじまいでした。

９月末に無事OSCEを終え、10月中旬より臨床実習が始まりました。もうすぐ２ヶ月が経とうとしていると考えるとあっという間で恐ろしいですが、この２ヶ月は本当に濃い２ヶ月でした。まだ臨床実習を振り返られるほどの余裕もなく診療のたびに自分の未熟さを痛感させられますし、スケジュール帳にすでに数ヶ月先の予定が埋まっているなんてことは今までなかったので不思議な気持ちです。最初の引き継ぎ期間、とても優秀で本当に親切に多くのことを教えてくださった６年生と一緒に乗り越えられたことは忘れられない時間となりました。６年生がいなくなり不安しかなかった時支えてくれた周りの同期、私達を見捨てず導いてくださる先生方、未熟な学生の診療に付き合ってくださる患者さん。こうした周りの人達への感謝を日々忘れずに、やるべきことから逃げずにしっかり向き合って残りの臨床実習も精進していきたいです。そしてまた気兼ねなく行きたいところに行けて、会いたい人に会える状況が戻ってくるまで気を引き締めて過ごしていきたいと思います。

お世話になった６年生との引き継ぎ
写真撮影時のみマスクを外しました

歯学部学生の様子

口腔生命福祉学科１年　川　上　彩　菜

あっという間に入学してから半年以上が経過し、後期の講義も半分が終了しました。

前期の初めの時点では後期は五十嵐キャンパスに通い対面での講義を行うことが出来ると思っていましたが、新型コロナウイルスの収束は見られる事がなく、後期もZoomを用いた非対面での講義が続いています。入学当時は、履修登録の仕方や講義などすることすべてが初めての事で戸惑っていました。ですが、今ではオンラインでの講義にも慣れ、大学の友人も出来、前期よりも充実した日々を過ごしています。

一年次は教養科目の講義を受けるという事で自分の興味のある講義を中心に履修を行いました。前期には、早期臨床実習や歯学スタディ・スキルズといった歯学に関する講義が組み込まれていましたが、後期はそのような講義もなくなり歯学に関する講義を受ける機会が減ってしまいました。しかし、後期は、自分の興味のある分野についての理解を深めたり、新たな興味を発見したりする良い機会となっていると感じています。さらに、講義の中には、ただ講義を聞いているだけではなく、受講生同士で話し合いや、意見交換を行うものもあり、講義の中だけではありますが、学部、学年の異なる方たちと交流することが出来ています。常に自宅で講義を受けているためこのように誰かと話すことが出来るという機会を作っていただけることをとても嬉しく感じます。非対面授業になっても分かりやすく、楽しい講義を行ってくださっている先生方にはとても感謝しています。

また、なかなか学生同士で会う事が出来ず歯学部内でも友人を作る事が出来ないという事に対応するために春に新入生の交流会を開いてくださった事、夏休みの最後にも集まる機会を作ってくださった事は、私たち一年生にとってとても嬉しい事でした。このような機会がなかったら、今、普段から連絡を取り合ったり、一緒にどこかに出かけたり、分からない事をお互いに聞きあったりすることのできる仲間がほとんどいない状態で一年間を過ごしていたかもしれません。このような状況になり改めて勉学を共にする仲間の大切さを学ぶ事が出来たように思います。

最後に、一年生の時期には大学に通って講義を受けること、仲間と生活を共にすることが出来ませんでした。二年生からは五十嵐キャンパスではなく、旭町キャンパスの方に移動となるため専門科目の講義が増えることになります。来年度は仲間と共にキャンパスに通いながらの講義が出来る事を心待ちにして様々なことに挑戦したいです。

歯学部生の「当たり前」の日常

口腔生命福祉学科２年　小　林　花　音

後期から対面授業が始まり、多くの授業を学校で受けています。しかし、コロナウイルス感染の危険性と隣合わせの状況は相変わらずで、講義は非対面形式、実習は対面形式で授業を受けている状況です。非対面で行っていたPBL形式の授業も対面でできるようになり、活発に意見交換や検討ができるため、より深い学習ができていると感じています。

歯科衛生士としての技術を身につけるための実習が始まり、お互いの口で実習をする相互実習が始まりました。相互実習室に入るとすぐに手を洗い、器具を揃える時には手指消毒をします。術者になる時には帽子、ゴーグル、プラスチックエプロン、手袋をつけて患者役の口を見ています。相互実習は唾液や血液の飛沫を伴うため、手指衛生や個人防護具の装着はこのような状況下においては必要なことだと思います。しかし、臨床の現場ではこのような感染対策は「コロナだから」始めたのではなく、「コロナの前から」当たり前のことであると教わりました。歯科の現場は、コロナウイルスだけでなく、その他の感染症に感染するリスクが高く、厳重な感染対策が自分の身を守るために必要であるということを実感しました。診療中の患者さんはマスクをすることができないため、感染の危険と隣り合わせの歯科にはこの当たり前はどんな状況下でも変わらず続くべきであると思いました。現場では当たり前のこととして行われている感染対策を実習でもきちんと行い、現場に出た時に当たり前にできるようにしたいと思います。

学生生活の日常である学校に毎日行くということ、友人と一緒に授業を受けること、疑問に思ったことを直接先生に聞けるということ、これらはこれまで当たり前のように行えていたことです。当たり前ができなくなった今、これらのことが行えるということに喜びすら感じています。学校に行って実習ができる。「おはよう」「今日の実習の持ち物合ってる？」「明日も実習だね」「また明日ね！」、何気ない話をして友人と笑うことができる。先生に些細なことでも質問することができる。きっとこのような状況でなければ、当たり前のことが当たり前だと考えることすらなく過ごしていたと思います。当たり前の日常が戻ってくること以上に良いことはありませんが、このような状況になり、より日々の日常を大切にしようと思うようになりました。

当たり前にできていた学生生活ができなくなった今日、私は２年生になってから「当たり前」ということについて考える機会が少なからずありました。大学生活も残り半分になろうとしている今、「当たり前」のことについて考えられたのは私にとって良い機会になりました。現場では当たり前のことが現場に出た時に当たり前にできるように、そして友人と過ごす残りの２年ちょっとの時間がより充実したものとなるように、日々の実習や日常を大切にしていきたいと思います。

コロナ禍における私たちの学生生活

口腔生命福祉学科３年　阿　部　円　香

初めまして。口腔生命福祉学科３年の阿部円香です。

後期の授業が始まり、10月からいよいよ週２日の病院での臨床実習が始まりました。

今年は新型コロナウイルスの影響で、前期の相互実習の時間が例年より少なく、実習慣れしていない状況の中で病院に出る不安はとても大きいものでした。また、前期はオンライン授業だったこともあり、先生や先輩方から事前に病院実習のお話を聞く機会も少なく、不安が募る中でのスタートになりました。

病院実習では今までの実習とはガラッと変わり、全てのことが新しく、戸惑うこともありました。初めて見る器具や薬剤、治療内容などがたくさんあり、メモをして次の実習までに調べてきたり、ついていくのに精一杯でした。12月までの２か月間は４年生の先輩方と一緒に実習させていただく機会があり、技術的な面だけでなく、先輩方の機敏に手際よく動く姿や、患者さんとの接し方、挨拶など、たくさんのことを勉強させていただきました。分からないことだらけで不安でいっぱいの私たちに「分からないことある？」「こういう時は～やると良いよ。」などと気にかけて声をかけてくださり、とても心強かったです。12月からは、４年生の先輩方が実習を終えられて、今まで４年生がこなしてきたものを３年生の私たちがやる機会も多くなりました。診療の準備や印象採得の準備、指示された器具や薬剤を準備室に取りに行ったり、分からないことは先生や歯科衛生士の方々に教えていただきながら、実習に励んでいます。まだまだ勉強不足の部分も多いですが、最近では今まで出来なかったことが出来るようになったり、時に先生方に褒めていただくこともあり、自分自身の成長に喜びを感じています。

また、３年生から本格的に福祉の勉強が始まりました。毎年３年生の春頃、福祉の実習があるのですが、今年は新型コロナウイルスにより中止になってしまいました。福祉実習は２年生の前期に特別養護老人ホームに伺って以来で、福祉の現場で働く方々の実際の様子を見学できる貴重な機会だったので残念です。福祉の学習は主に、PBLや先生方の講義を通して学んでいます。社会情勢の変化で頻繁に法律が改正されたり、新たにつくられる制度に頭が混乱しますが、制度や法律を学ぶことで社会問題の歴史や、その法律がつくられた時代背景、現在の日本や世界中が抱えている問題について深く知ることができるようになり、もっと学びを深めたいと日々感じています。

2020年はコロナの影響で日常生活が制限され、不安を感じることも多かったですが、心の支えとなったのは同級生の存在です。ソーシャルディスタンスを保ちながら、昼食を食べ、今日あった実習のこと、テレビや趣味の話など、たわいもない会話をすることが毎日の楽しみになっています。そんな同級生達と過ごせるのもあと１年です。大学生活は本当にあっという間に感じます。残りの１年も仲間たちと支え合いながら、日々精進していきたいです。

実習後の１枚